

2020年に輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2020年に我が国に輸入された植物類は、検査件数で貨物約56.4万件、携帯品約8.5万件、国際郵便物約15万件、計約80万件であった。植物防疫所による輸入検査の結果、これらの植物からは我が国が海外からの侵入を警戒している重要な病害虫が数多く発見されている(下表)。コロナ禍の影響もあり、携帯品の輸入検査実績は前年比約26%に減少した。なお、輸入禁止対象病害虫(その寄主植物の輸入を禁止している

病害虫)は携帯品・郵便物として輸入される生果実から発見されることが多いため、植物防疫所では、植物類を輸入する際は、輸出国の検査証明書が必要なこと、植物防疫官による検査が必要なこと等、植物検疫制度について周知・啓発を行っている。最近では、広報活動の一環として動画投稿サイトを活用するなど、新たな取り組みも行っている。

	病害虫名	発見件数	発見植物	輸出(仕出)国・地域	輸入形態
対輸入禁止病害虫	<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex ミカンコミバエ種群 (80件)	(80件)	トウガラシ生果実、グアバ生果実、マンゴー生果実、レンブ生果実、サラカヤシ生果実、その他生果実等13種	ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイ、中国、その他8か国	携帯品・郵便・貨物
	<i>Bactrocera cucurbitae</i> ウリミバエ (7件)	(7件)	ニガウリ生果実、カラスウリ属生果実、ウリ科生果実	パキスタン、スリランカ、タイ、フィリピン	携帯品
	<i>Cylas formicarius</i> アリモドキソウムシ (2件)	(2件)	サツマイモ塊根	インドネシア、フィリピン	携帯品
特定重要病害虫	<i>Elasmopalpus lignosellus</i> モロコシマダラメイガ (13件)	(13件)	アスパラガスどん茎	メキシコ、ペルー	貨物
	<i>Potato spindle tuber viroid</i> ジャガイモやせいもウイルス (4件)	(4件)	トウガラシ種子、トマト種子	中国	郵便・貨物
	<i>Lygus lineolaris</i> サビヨカスミカメ (3件)	(3件)	ラズベリー生果実	メキシコ	貨物
	<i>Diabrotica undecimpunctata</i> シュウイチホシウリハムシ (3件)	(3件)	タチシヤ茎葉(加工)、ブラックベリー生果実、混合野菜茎葉(加工)	米国	貨物
重要病害虫(発見数上位掲載)	<i>Bactrocera latifrons</i> ナスミバエ (51件)	(51件)	トウガラシ生果実、トマト生果実、ナス属生果実	タイ、ベトナム、ネパール、中国、フィリピン、その他3か国	携帯品・郵便物
	<i>Helicoverpa zea</i> アメリカタバコガ (33件)	(33件)	アスパラガスどん茎、オランダイチゴ生果実	メキシコ、米国	貨物
	<i>Pseudococcus calceolariae</i> ガハニコナカイガラムシ (31件)	(31件)	ガマズミ属切花、レウコスベルム属切花、オレンジ生果実、カメラウシウム属切花、アボカド苗、その他生果実2種	チリ、オーストラリア、イタリア、南アフリカ	貨物
	<i>Uromyces betae</i> テンサイさび病菌 (26件)	(26件)	フダンソウ属種子、カエンサイ種子、ビート種子、サトウダイコン種子、テンサイ種子、スイスチャード種子	米国、イタリア、フランス、オーストラリア、スイス、その他3か国	郵便物・貨物
	<i>Unaspis citri</i> ニセヤノネカイガラムシ (16件)	(16件)		メキシコ	貨物
	<i>Liriomyza langiei</i> セロリー茎葉、ブロッコリー茎葉、チンヤ茎葉、レタス茎葉 (16件)	(16件)		米国	貨物
	<i>Heliothis virescens</i> ニセアメリカタバコガ (15件)	(15件)	アスパラガスどん茎	メキシコ、ペルー	貨物
	<i>Bactrocera coreacta</i> セグロモミバエ (12件)	(12件)	グアバ生果実、ナツメ属生果実、マンゴー生果実、カリッサ属生果実、インドナツメ生果実、その他生果実2種	ミャンマー、ベトナム、タイ	携帯品
	<i>Delia radicum</i> キャベツハナバエ (11件)	(11件)	チリメンカンラン茎葉、ハツカダイコン、メキャベツ茎葉、ルタバガ	イタリア、オランダ、ベルギー、英国	貨物

ポジティブリスト対象病害虫の解説

— Zucchini green mottle mosaic virus —

Zucchini green mottle mosaic virus (ZGMMV) は、1999年に韓国のズッキーニ(ペポカボチャの一品種)から初めて分離された。当初、Cucumber green mottle mosaic virus あるいは Kyuri green mottle mosaic virus の一系統として考えられていたが、外皮タンパク質の塩基配列の違い等から2000年に Tobamovirus 属の新種として報告された。韓国及び中国の一部地域(広西チワン族自治区)で発生が確認されており、両国からは宿主植物が多数輸入されていることから日本への侵入を警戒している。

ZGMMVに感染したペポカボチャでは、葉に斑紋及び激しいモザイク症状、果実に奇形や軽度の緑色モザイク症状がみられるが、高温多湿の施設内では症状が消失、又は弱くなることがある。韓国では複数のペポカボチャ生産地で経済的被害がもたらされた。

ZGMMVは、土壌伝染、汁液伝染が知られている。また、ペポカボチャでは種子伝染の報告があり、スイカでも種子伝染すると考えられている。さらに、植物残さで長期間生存が可能との報告もある。ZGMMVの防除方法としては、感染植物の早期の抜き取りや汚染土壌・種子も含めた廃棄並びにほ場の衛生管理が重要である。

諸外国のZGMMVに対する検疫措置の一例とし

て、豪州では、スイカ及びペポカボチャの栽培用種子に対して、ELISA法による種子9,400粒以上の検定を求めている。

ZGMMVは日本未発生であることから、植物防疫法施行規則において検疫有害植物として規定され、発生国からの宿主植物の輸入に際し、2020年11月11日から検疫措置を要求している。

○対象国：韓国及び中国

○対象植物：スイカ及びペポカボチャの栽培用種子並びにスイカ、ペポカボチャ及びユウガオの栽培用に供し得る生植物(種子及び果実を除く。)

○検疫措置：輸出国において血清学的診断法又は遺伝子診断法による精密検定を行い、ZGMMVに侵されていないことを検査証明書に特記する。

発行所 横浜植物防疫所
 発行人 大友 哲也
 編集責任者 青木 勇治
 掲載 植物防疫所ホームページ



<http://www.maff.go.jp/ppsj/guidance/pestinfo/index.html>

無断転載禁止